

## サシバ *Butastur indicus* の渡り群

### 【選定理由】

1972年秋、国内でタカの群れが渡りをする姿やその方向が、科学的な視点で再発見された場所が伊良湖岬であり、国内でタカの渡りの定点調査が始められたのも伊良湖岬である。その後国内各所で本格的な調査が始まり、現在では広大なネットワークとなっている。春の渡り調査を含め、近年は人工衛星を使った調査にまで発展して、渡りの実態は大きく解明されている。県内には豊橋～渥美半島～伊良湖岬コースの他に、豊川・岡崎～西三河南部～知多半島中南部のコースがあり、尾張地方にも小規模で幅の広いコースがあると思われるが、他のタカ類や小鳥類なども多く通過する三河地方の2コースを渡るサシバの渡り群が、愛知県の地域個体群と評価された。

### 【形態】

全長47～51cm、翼開長102.5～115cm。翼は長くてやや細い。成鳥は、頭から背にかけて赤みのある褐色で、腹に茶褐色の横斑、喉の中央に明瞭な縦線が1本あり、目は黄色。雄成鳥は、頭部に灰色味が強い。幼鳥は、上面に赤味がなく胸から腹にかけて縦斑、汚白色の太い眉斑があり、目は暗褐色。



愛知県西尾市, 2017年9月26日, 高橋伸夫 撮影

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

丘陵地や山地に飛来して繁殖するが、近年丘陵地での繁殖はなくなった。

#### 【国内の分布】

国内では、北海道を除く全国で繁殖し、南西諸島では少数が越冬する。

#### 【世界の分布】

アムール南部、ウスリー地方、中国東北部、朝鮮半島北部、および日本で繁殖し、南西諸島、台湾、中国南部、ミャンマー、インドシナ、マレー半島、フィリピン、ボルネオ、マルク諸島、ニューギニアなどで越冬する。

### 【生息地の環境／生態的特性】

秋の渡りでは季節風が強い日は山を吹き上がる上昇気流を利用して山伝いに移動し、風が弱い日には、地表が温められてできる上昇気流を利用して移動する。渥美半島には山塊が続いており、西三河南東部にも山塊が続いているが、近年は渡りの季節に強い季節風が吹く日数が減少している。渥美半島コースでは多少雨が降っても、夕方近くでも渡りの移動が見られるのに対し、西三河南部を通り知多半島を経由するコースでは、空が曇ったり、晴天でも午後になると渡りの移動が止まる。

### 【現在の生息状況／減少の要因】

伊良湖岬では、1980年代まで秋の渡りで15,000～18,000羽が記録されたが、2013年以降は5,000羽に満たなくなっている。国内の生息数が減少していることの他に、強い季節風の吹く日数が減少したことで、調査地点の真上を通らない個体が計測されなくなっている可能性も考えられている。

### 【保全上の留意点】

繁殖地の生息環境を保全すること、渡りのコース上に風力発電などの障害物を設置しないようにするべきである。

### 【特記事項】

平野部を渡る西三河南部コースでは、晴天の朝は宮崎海岸から知多半島へ、地表の温まる8時頃になると平野部を西方向へ、さらには知多湾を迂回する西北西方向へとコースを変えることが多い。

### 【関連文献】

伊良湖岬の渡り鳥を記録する会, 2000. 伊良湖岬のタカの渡り. タカの渡り 2000, pp.36-46. タカの渡り全国集会 in 信州実行委員会, 長野.

(高橋伸夫)